

埋蔵量世界2位のレアアース開発が使命

「先進国入り」目標達成に不可欠な国家事業

2030年までに年200万トンに増産

ハノイ鉱山・地質大学で鉱物学を教えるブイ・タン・ティン氏は、現在、秋田大学の博士課程に所属し、レアアースについて研究している。ベトナムのレアアース埋蔵量は、世界2位の2,200万トンと推計される。それを母国の経済発展に役立てる使命を負って、来日した。資源の絆プログラムでは初のベトナム人留学生だ。

レアアース埋蔵量は中国に次ぐ



ハノイ鉱山・地質大学教員

ブイ・タン・ティン氏
Bui Thanh Tinh

が、中国のレアアース生産量は世界シェア9割なのに、ベトナムの生産量は世界の数%に過ぎない。

それでも2022年に4,300トンと、前年の400トンから10倍以上に拡大した。これをさらに2030年までに年約200万トンに増産することを目指している。ベトナムが建国100周年を迎える2045年までに「高所得の先進国」となる国家目標がある。また、代表的な都市を「東南アジアのシリコンバレーにする」という意向もある。

その実現に向け、レアアースなど鉱物資源開発は不可欠な課題だ。レアアース資源開発の目玉は、ベトナム北部の中国国境近くにあるドンパオ鉱山とされる。世界最大の銅鉱山の一つで、ベトナム最大のレアアース鉱山でもある。政府は2014年に採掘許可を出したが、開発は遅れていた。

「ベトナムの強みは、資源の多

様さと安定した政治システム、そして若い労働力。だが、資源管理の政策や法制度の整備が遅れていることが弱点だ」と、ブイ・タン・ティン氏は指摘する。さらに「ベトナムでは埋蔵資源の調査は進んでいても、採掘技術については十分に取得できていない」とも語る。

彼自身、ベトナムからの資源の絆の留学生第一号であり、人材育成ニーズは非常に大きい。海外留学に派遣する人材の余裕がなかったようだ。「鉱物資源分野の仕事は地方での勤務が多い割に、給料が高くない」と、人材が十分に集まらない事情を嘆いた。

米中対立でベトナムに追い風

だが、米中対立が深まる中、レアアースの中国依存を見直す機運が国際的に広がり、ベトナムに追い風が吹いている。

2023年には韓国の尹錫悦大統領、ジョー・バイデン米大統領が訪越し、それぞれベトナム政府との間でレアアース分野の協力強化で合意した。韓国はベトナムに総額40億ドルの開発援助を進める方針も表明した。日本からは昨年9月、西村前経産大臣が訪越した。2023年は、日越国交正常化から50周年を迎え、ベトナムでも記念行事が催された。「ベトナムにとって最重要な技術を持つ先進国・日本」での留学生活に大きなやりがいを感じている。



資源の絆10周年記念シンポジウムに参加した留学生・卒業生ら＝東京都内のJICA緒方貞子平和開発研究所で